

英語科 学習指導案

日時:令和4年12月15日(木)第5校時

学級:第2学年A組

授業者:

1 単元名 Stage Activity2「Research and Presentation」

2 単元の目標

クラスで人気のあるものを調査し、その内容を効果的に伝えるために、表やグラフを示したり、聞き手を惹きつけるための工夫をしたりしながら、調査結果や自分の考え、気持ちを伝えることができる。話すこと[発表](イ)

3 話すこと(発表)にかかわる単元目標と学習到達度目標

Unit3	ALT に自分の将来像や夢について伝えるために、体験したことや学んだこと、夢のためにしていることなどについて、自分の考えや気持ちとその理由を、ジェスチャーや具体物を用いながら話すことができる。
Unit5	誰もが暮らしやすい社会について考えるために、身近にあるユニバーサルデザイン商品について、実物を提示しながら、その使い方や特徴を説明したり、自分の考えを伝えたりすることができる。
Unit6 Stage Activity2	クラスで人気のあるものを調査し、その内容を効果的に伝えるために、表やグラフを示したり、聞き手を惹きつけるための工夫をしたりしながら、調査結果や自分の考え、気持ちを伝えることができる。
Unit7	ALT の友人におすすめの日本の世界遺産を紹介するために、世界遺産についてその特徴や価値、自分の考えやおすすめする理由などについて、聞き手によりよく伝わる工夫をしながら、事実と考えを整理して話すことができる。
学習到達度目標	日常的な話題や社会的な話題について、自分の経験や他教科等で学習したことに基づいた自分の考えや気持ちとその理由、また詳しい様子や特徴を表した事実等を、基本的な音声の特徴の他、ジェスチャー、具体物等の非言語手段を含め、聞き手によりよく伝わる工夫をしながら、7文程度の英文で話すことができる。

4 単元の5領域に関する評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと (L)	<ul style="list-style-type: none"> Unit6までの学習事項(言語材料)を用いた文の意味を理解している。 Unit6までの学習事項(言語材料)の理解をもとに、クラスで人気のあるものについて、調査結果の内容や考察、考えや気持ちなどを聞き取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ただ聞き流すのではなく、数値や比較表現に注目し、話の要点を意識しながら聞いている。 助動詞に注意を払い、グループの感想や考察を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ポスタープレゼンテーションで、できるだけ多くの情報を聞き取ろうとしている。これまでの学習を生かし、主に比較表現に注意を払いながら調査結果を理解し、評価しようとしている。
読むこと (R)	<ul style="list-style-type: none"> Unit6までの学習事項(言語材料)を用いた文の形・意味を理解している。 Unit6までの学習事項(言語材料)の理解をもとに、クラスで人気のあるものについて、調査結果についての概要を読み取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単調に読み進めるのではなく、数値や比較表現に注目し、重要なポイントを把握しながら読み進めている。 感想・考察が調査結果やデータに基づいていることを理解し、両者の繋がりを把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や効果的な比較表現・助動詞の使い方等、調査結果を報告する文章の特徴を積極的に吸収し、読んだ内容を自らのグループの発表に生かそうとしている。
話すこと [やりとり](SI)	<ul style="list-style-type: none"> Unit6までの学習事項(言語材料)の形・意味・用法を理解している。 Unit6までの学習事項(言語材料)の理解をもとに、クラスで人気のあるものについて質問したり答えたりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が質問するだけでなく、相手の質問に対しても正しく理解し、相手が望む情報を提供している。 最初の投げかけや最後のお礼、相槌などを取り入れながら、自然でスムーズな会話をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit6で学習したインタビューの流れを意識しながら、必要な情報を尋ねつつ、相手に必要な情報を与えられるよう、尋ねることと答えること双方に意識を向けようとしている。
話すこと [発表](SP)	<ul style="list-style-type: none"> Unit6までの学習事項(言語材料)の形・意味・用法を理解している。 Unit6までの学習事項(言語材料)の理解をもとに、クラスで人気のあるものについて、調査結果や自分の考え、気持ちなどを発表する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> カルガリーと不破中学校の生徒に北中学校で人気のあるものを伝えるために、調べた内容に基づく理由や自分の考え、気持ちなどを交え、事実や情報を整理し、簡単な語句や文、グラフ等を用いて発表している。 聞き手を惹きつける分かりやすい発表にするために導入と結論の大切さを理解し、発表で実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> カルガリーと不破中学校の生徒に北中学校で人気のあるものを伝えるために、調べた内容に基づく理由や自分の考え、気持ちなどを交え、事実や情報を整理し、簡単な語句や文、グラフ等を用いて発表しようとしている。 どうすれば聞き手を惹きつける分かりやすい発表になるかを考えながら発表しようとしている。
書くこと (W)	<ul style="list-style-type: none"> Unit6までの学習事項(言語材料)の形・意味・用法を理解している。 Unit6までの学習事項(言語材料)の理解をもとに、調査結果について正確に伝えるまとまりのある文を書く技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の際の聞き手を意識し、聞いたときに理解しやすい流れになっているかを意識しながら、分かりやすい文章を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> どうすれば相手に伝わりやすい文章になるかを考え、グループで話し合いながらより良い表現を探ろうとしている。

5 教材観・指導観

本題材は生徒たちが実際にトピックを決め、クラスメートに人気のあるものを調査し、その結果を発表し、互いに評価をするという内容である。その活動を通して、生徒らは調査結果について図表を用いて2つ以上のものを比較しながら説明することや、ユニークな点、驚いた点を特徴として取り上げ、三段構成を意識して聞き手により分かりやすく伝える工夫を学ぶことができる。そして発表に向けて、様々な種類の図表(棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、地図、帯グラフ等)の中から、自分の伝えたい内容を示すにはどのグラフが適切であるかを考えたり、図表を2つ以上使ってクロス集計したり、調査結果を分析したりする活動を通して、生徒たちの思考力を育むことができる。こうした一連の学習活動を通して、課題設定力、情報収集力、情報分析力、資料作成力、発表力、評価力といった、様々な力の基礎を育成することができる点が本題材の大きな魅力であると考えられる。プレゼンテーションのプロセスを学ぶとともに、話のテーマに沿った展開になっているかを確認したり、聞き手に分かりやすい語句や表現を調べたり、考えたりする活動を取り入れ、聞き手に配慮することや、聞き手に問いかけたり、問いかけた後に考える時間をとったりすることにより、コミュニケーションとしてのプレゼンテーションになるよう指導していきたい。

言語材料としては、Unit4 では have to と must といった助動詞と、主語または目的語になる動名詞について、Unit5 では〈主語+動詞+(人)+疑問詞+to+動詞の原形〉や〈主語+be 動詞+形容詞+that〉について具体的な使用場面を想定しながら習得してきた。Unit6 では、比較級と最上級、〈as 原級 as〉の表現が扱われている。比較は-er や -est をつけるなど語形の操作が難しい部分もあるが、身近なことや生徒が興味を抱きやすいものについて比較する言語活動を通して、習得できるようにしてきた。本単元では、生徒自らがこれまで学習してきた言語材料を適切に選択、活用して、人気のあるものについての事実や自分の考え、気持ちを伝えられるよう指導したい。

6 生徒の実態

本学級の生徒は、学習に対して前向きに取り組もうとする意欲のある生徒が多い。話すこと(発表)にかかわっては、Unit5「Universal Design」において、身の回りにあるユニバーサルデザインについて調べたことを整理し、実物を示しながら使い方ややり方を説明したり、自分の意見を述べたりした。26名の生徒のうち22名の生徒が導入時で聞き手に質問をし、23名の生徒が実物を示して、聞き手の興味を惹く工夫をすることができた。生徒 A は単調な質問ではなく、聞き手と2往復程度のやり取りをしながら発表をしていた。それを見た他の生徒も「あんな発表がしたい」とコミュニケーションを図りながらの発表を目指そうとしている。また、事実やその理由に加え、自分の考えや思いをどこまで詳しく伝えるかで、発表にその価値や重みが生まれることを実感した。そして、「聞き手の興味を惹きつけ、より分かりやすく伝えること」の重要性を実感している。こうした生徒の願いを実現できる単元となるよう指導にあたりたい。特に、何を発表の目的とするのか話のテーマに着目し、それに沿った展開になるよう文構成の点に主眼を置いて指導したい。

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

調査内容	定着している	概ね定着している	やや努力を要する	努力を要する
Unit4～Unit5 の言語材料についての用法が身に付いている。 (調査内容:適語選択問題・適語補充問題・並び替え問題 計10問)				
事実とともにその理由、自分の考えや気持ちを話すことができる。 (調査内容:Unit5におけるパフォーマンステスト結果)				
表やグラフから得られる情報を正しく読み取ることができる。 (調査内容:令和元年度全国学力学習状況調査問題・英語5(3)グラフをもとにした読解問題)				

【基礎・基本の定着状況に関して】

Unit4～Unit5 の学習事項について定着している生徒、また事実とともにその理由、自分の考えや気持ちを話すことができる生徒が多い。また、表やグラフから得られる情報を平易な英文で読み取ることができる生徒はほぼ全員で、適切に英文を読み取る力が身に付いていることが分かる。

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
英語でのやり取りや発表をし合うことは楽しいと思う。				

【意識の状況に関して】

英語でのやり取りや発表に積極的に取り組む生徒が多い一方、英語を苦手としていたり、人前で話すことに抵抗を感じていたりする生徒にとっては、英語での学習活動があまり楽しくないと感じている様子がかがえる。「英語で伝えられた」という喜びや達成感が得られるよう、生徒一人一人への確かな価値づけを行うとともに、ペアやグループでの協働的な活動を通して、その楽しさを実感できるようにしていきたい。

7 研究テーマとの関わり

令和4年度 英語教育推進事業 研究テーマ

言語活動を通して、「学ぶ喜び」を実感しながら、
主体的にコミュニケーションを図る児童生徒の育成

研究内容1 児童生徒が「学ぶ喜び」を実感できる指導の工夫

1) 伝えたい内容と英語表現を思考・判断するための手立て

話すこと(発表)においては、伝えたい内容をブレインストーミングで構想を膨らませながら Mind Mapping を作成し、文を記すのではなく、伝えたいキーワードをできるだけ短い言葉で記し、それを用いて英語表現を思考・判断できるようにしてきた。本時では bait と hook について考える際、表現を文で書くのではなくキーワードのみをメモするように指導し、どのような表現を使うことができるか生徒が思考・判断できるようにする。

2) タブレットをコミュニケーションツールとして活用する言語活動の工夫

本單元においては、人気調査の際にすべてのグループが Microsoft Forms を使用し、アンケートを行った。そして、調査結果をグラフや図表に示す際には Excel を、発表に向けては Power Point を活用し、単元を通してタブレットをコミュニケーションツールとして活用できるように言語活動を仕組んだ。本時においては、聞き手を惹きつけるための bait と hook をそれぞれのグループがどのように考えたかの表現メモを写真に撮り「スカイメニュー」で共有する。中間交流時に、互いの表現を内容面、言語面から比較し、それぞれの表現のよさを学び合い、自分たちのグループの発表に生かすようにする。

3) アウトプットの正確さを高めるための指導の在り方

これまで正確さを高めるために、カードを示した語順指導、中間交流時における Common error の共有、正しい答えを教師側から伝えるのではなく、生徒間で考え合う時間を大切にしてきた。本時においても、生徒の状況に応じて、同様の指導援助を行っていきたい。

研究内容2 児童生徒が「学ぶ喜び」を実感できる評価の工夫

1) 「垂井町版 CAN-DO リスト」を活用した自己調整学習の在り方

昨年度より「CAN-DO リスト」を生徒と共有し、各学年でどのようなことができればよいのかを生徒にも提示している。また、今年度は、各単元の導入時に My Goal: 自己追究課題の設定(特に高めたい技能の設定)、終末時に Feedback: 自己課題への取り組みの様子を振り返る場を設けている。【別紙「My Footprint of Learning English」参照】本時は、課題設定時にそれぞれの My Goal を再確認する時間を設ける。そして終末で「何ができるようになったか」を振り返る場を大切に、学ぶ喜びを実感できるようにしたい。

2) 「実の場」を意識したパフォーマンステストの工夫

ALT の協力を得ながら、今年度は特に「実の場」を意識したパフォーマンステストを仕組めるようにしている。生徒はこれまでに「カルガリーの生徒に人気のある日本食についてのガイドブックを作ろう」(書くこと)や、「この冬に日本を訪れる予定である Rachael 先生の友達 Julie に、彼女が知りたいことについて自分のおすすみを紹介しよう」(話すこと 発表)などをパフォーマンス課題として取り組んできた。

本単元の出口の活動として、グループごとの発表を町内の不破中学校とオンラインで交流し、カルガリーの学校にはビデオレターで送るという「実の場」を設定した。不破中学校との交流は生徒にとっては初めてとなる。相手意識をしっかりと持ち、学習課題である聞き手を惹きつける導入、そして結論の工夫ができることを目指す。

8 指導と評価の計画 (Unit6:全10時 + Stage Activity2:全6時)

単元	時数	目標	主な言語活動	使用領域とその評価の観点		
				知	思	主
Unit6	1	【扉, Preview, Scene1】 複数のものを比べた結果を理解したり伝えたりするために、事実などを整理し、情報を捉えたり説明したりすることができる。	・単元の目標を理解する。 ・ジョシュが見つけたクイズを理解し、分かったことを伝え合う。 ・単元の出口で発表したいトピックを考える。	L SI W	L SI	L SI
	2	【Scene2】 複数のものを比べた結果を理解したり伝えたりするために、自分の気持ちなどを整理し、情報を捉えたり説明したりすることができる。	・朝美のアンケートの回答結果を聞き取り、自分の意見と比べながら、朝美の回答結果を伝える。 ・クラスメートにインタビューする。	R SP W	R	R SP W
	3	【Mini Activity】 事実や気持ちを伝え合うために、複数のものを比較して伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	・自分たちの調査結果について、その事実と自分の気持ち・仲間の気持ちを加えて話す。	L SI W	SI	L SI W
	4	【Read and Think1】 調査の結果について理解したり伝え合ったりするために、複数のものを比べた文章の概要を捉えたり説明したりすることができる。	・ジョシュのグループの調査結果の概要を理解し、グラフやメモを見ながらジョシュの調査結果を伝える。	R SI SP W	R SI	R SI SP W
	5		・自分たちの調査結果をどの種類のグラフでまとめると効果的であるかを考え、グラフを作成し、調査結果を伝える。	SI SP	SI SP	SI SP
	6	【Read and Think2】 身近なトピックを通して、調査や発表の効果的なやり方について考えるために、発表の内容について評価する文章の概要を捉えたり、程度が同じくらいのことを説明したりすることができる。	・海斗の評価シートを読み取り、プレゼンテーションのポイントを理解する ・程度が同じくらいのことを説明する。	R SP W	R W	R SP W
	7		・プレゼンテーションのポイントを理解し、自分たちの発表に生かすことができる。 ・仲間の気持ちも加えて発表する。	SI SP W	SI SP	SI SP W
	8	【Unit Activity】 目的地までの行き方を決めるために、複数の交通手段を比べて、意見を伝え合ったり、書いたりすることができる。	・緑博物館までの行き方として、自分が使いたい交通手段とその理由、自分の意見を、複数の交通手段と比べながら伝える。	SI W	SI W	SI W
	9	【Grammar for Communication】 比較表現を用いた文の形・意味・用法を復習し、理解を確かめる。	・比較表現を用いた文の形・意味・用法を復習する。	R W	R W	R W
	10	【Let's Talk4】 自分の好みや要望を伝えながら買い物をするすることができる。	・海外旅行先で買い物をするとしたら、どんなものを書きたいか品物、サイズ、色、予算の要望を伝えながら買い物をする。	SI	SI	SI
Stage Activity2	1	クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表することができる。	・調査結果を分析し、要点をまとめる。	SP W	SP W	SP W
	2		・調査の結果をパワーポイントにまとめる。 ・baitとhookについて確認する。	SP W	SP W	SP W
	3 本時		・Introduction や Conclusion の部分に着目し、発表内容を再構築する。 ・パフォーマンステストの練習をする。	L SP	SP	L SP
	4		・グループで発表する。(オンライン授業)	L SP	L SP	L SP
	5		パフォーマンステスト	SP	SP	SP
	6		単元テスト	W	W	W

9 本時の目標

「クラスで人気のあるもの」について伝えるために、事実や情報を整理しながら、特に Introduction や Conclusion の部分に着目して発表の内容を再構築し、聞き手を惹きつける発表の仕方について表現の工夫をすることができる。

10 本時の展開(3/6)

学習過程	学習活動	指導上の留意点								
00 05 つかむ 10 13 15 追究する	1. Warm-up ①Let's sing a song ②Let's chat(パフォーマンステスト練習) 2. ALTより英語の発表について聞く。 ・特にIntroductionとConclusionの部分に着目し、聞き手を惹きつけるbaitとhookの重要性について確認する。 3.本時の課題を確認する。 Today's Aim: Let's think about the bait and hook of your presentations. 4.発表のアップデートの仕方について想起させる。 ・p.88のジョシュの発表を取り上げ、よりよい発表の仕方について思い出す。 ・例を挙げたり、質問をしたり、あまり知られていない驚くべき事実を伝えたりすることで聞き手を惹きつけることができることを確認する。 5.「TED Talks」を視聴し、baitとhookの有効性を確認する。 6.自分たちの発表のIntroduction(bait)とConclusion(hook)の部分について再考する。	・Let's chat(Small Talk)において、パフォーマンステストのように条件を指定し、その条件を満たすことのできるようになり組めるようにする。 ・クラスで人気のあるものについて調査した結果について、聞き手を惹きつけるにはIntroductionの「bait」とConclusionの「hook」が重要であることを想起させる。 ・自己追究課題My Goalを再確認させ、本時を通して生徒が大切にできるようにする。【研究内容2-1】 [TED TalksのURL] https://youtu.be/Fkd9TWUtFm0 ・教科書で取り上げられた発表を参考にして、bait/hookにあたる部分にどんなことを書くにとさらによくなるのを想起させる。 ・どのように文構成を組み立てればよいか(内容面)と、どのような表現を使うことができそうか(言語面)の両面から考えるように促す。【研究内容1-1】 ・ALTと協力して、①構成や表現の工夫について悩んでいるグループ、②中間交流で全体に広めたいbaitとhook、③Common errorの3点に留意しながら机間指導を行う。【研究内容1】								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>bait</th> <th>hook</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 【Giving some examples】 ・アニメのタイトルを並べて、これから話す内容をイメージさせるとよいのでは? Doraemon, Demon Slayer, One Piece... </td> <td> ・アニメを見るメリットを述べてみるといいかも。 We can learn many things through watching anime. </td> </tr> <tr> <td> 【Asking a question】 ・好きな給食を尋ねてみては? What school lunch do you like? </td> <td> ・いろいろな食材を試すことは食文化を学ぶことにつながるよね。 We can learn about food culture. </td> </tr> <tr> <td> 【Giving a surprising fact】 ・世界に存在するスポーツの競技数を挙げてみては? How many sports are there in the world? There are about 200! </td> <td> ・もっと多くのスポーツについて知る機会を作ると自分に合ったスポーツが見つかるかもしれないね。 If you take the opportunity to learn about more sports, you may find the best one for you. </td> </tr> </tbody> </table>	bait	hook	【Giving some examples】 ・アニメのタイトルを並べて、これから話す内容をイメージさせるとよいのでは? Doraemon, Demon Slayer, One Piece...	・アニメを見るメリットを述べてみるといいかも。 We can learn many things through watching anime.	【Asking a question】 ・好きな給食を尋ねてみては? What school lunch do you like?	・いろいろな食材を試すことは食文化を学ぶことにつながるよね。 We can learn about food culture.	【Giving a surprising fact】 ・世界に存在するスポーツの競技数を挙げてみては? How many sports are there in the world? There are about 200!	・もっと多くのスポーツについて知る機会を作ると自分に合ったスポーツが見つかるかもしれないね。 If you take the opportunity to learn about more sports, you may find the best one for you.	
bait	hook									
【Giving some examples】 ・アニメのタイトルを並べて、これから話す内容をイメージさせるとよいのでは? Doraemon, Demon Slayer, One Piece...	・アニメを見るメリットを述べてみるといいかも。 We can learn many things through watching anime.									
【Asking a question】 ・好きな給食を尋ねてみては? What school lunch do you like?	・いろいろな食材を試すことは食文化を学ぶことにつながるよね。 We can learn about food culture.									
【Giving a surprising fact】 ・世界に存在するスポーツの競技数を挙げてみては? How many sports are there in the world? There are about 200!	・もっと多くのスポーツについて知る機会を作ると自分に合ったスポーツが見つかるかもしれないね。 If you take the opportunity to learn about more sports, you may find the best one for you.									
30 35 42 まとめる	7.発表練習I ・考えたbaitやhookを取り入れグループの発表を他のグループと交流し合う。 ・互いの発表について、簡単な英語でコメント、アドバイスをし合う。 8.中間交流 ・構成や表現の工夫について悩んでいることはないか ・聞き手を惹きつけるOpening:baitとClosing:hookの共有 ・Common errorの確認 9.発表練習II ・baitとhookを取り入れ、グループの発表を練習Iとは別のグループと交流し合う。	・各グループで考えたbaitとhookの表現メモを写真に撮り「スカイメニュー」で提出し、全体で共有できるようにする。【研究内容1-2】 ・中間交流では、baitとhookの有効性(内容面)についてと、これまで学習した言語材料の使用(言語面)の両面で価値付けを行う。								
	<p>How many school lunches does Japan make for students every day? Do you know? It's about 10,000,000! Do you like school lunch?</p> <p>Look at the graphs. According to our research, ninety percent of our classmates like school lunch. As for the kind of dishes, ten of our classmates like kimchi fried rice the best, and five like ramen. I was very surprised that many people like kimchi fried rice because I don't like it. But Rachael was happy because she loves it.</p> <p>Thanks to school lunch, we can eat many kinds of dishes. It's important to try new food because we can learn about food culture.</p>	評価規準【思判表】 事実や情報を整理しながら発表の内容を再構築し、baitとhookを取り入れて、聞き手を惹きつける発表の仕方について表現の工夫をしている。(発表内容)								
47 振り返	10.振り返りをする。 私達は、baitとして日本で作られている給食がどれくらいあるか尋ねる質問とその答えをIntroductionに取り入れ、hookとして食文化についての意見を伝えました。それによって、今までよりも聞き手を惹きつけられるような発表になったと感じます。	・聞き手を惹きつける発表にするためにIntroductionやConclusionを再構築できた姿や、これまでの既習表現を活用できた生徒を指名し、本時の学習の高まりを価値付ける。 ・「本時どんな内容を取り入れることができたか」、「何ができるようになったのか」について振り返るよう促す。【研究内容2-1】								

単元指導構想 (Unit4~Stage Activity2)

Stage Activity2 Research and Presentation「話すこと[発表]」イ

クラスで人気のあるものを調査し、その内容を効果的に伝えるために表やグラフを示しながら調査結果や意見を伝えることができる。

終末の姿: クラスの人気のあるものについて、表やグラフを示しながら調査結果や意見を発表する。

How many school lunches does Japan make for students every day? Do you know? It's about 10,000,000! Do you like school lunch?

Look at the graphs. According to our research, ninety percent of our classmates like school lunch. As for the kind of dishes, ten of our classmates like kimchi fried rice the best, and five like ramen. I was very surprised that many people like kimchi fried rice because I don't like it. But Rachael was happy because she loves it.

Thanks to school lunch, we can eat many kinds of dishes. It's important to try new food because we can learn about food culture.

Unit6 Research Your Topic「話すこと[発表]」イ

身近なトピックの調査結果や自分の考えを効果的に紹介するために、複数のものを比較しながら、調査結果や意見を伝えることができる。

終末の姿: ALT におすすめしたいレストランについて表や ALT の要望を踏まえたうえで、生徒同士でやり取りする。

A: Which restaurant is the best for Rachael?

B: I think "Jyu Jyu." It's very popular.

A: I see. We can eat Hida Beef there. But it is the most expensive of the four.

B: OK. How about "Ueda"? It's not expensive and we can eat Japanese Pork Cutlet.

A: Sounds good.

Unit5 Universal Design「話すこと[発表]」イ

誰もが使いやすいものや暮らしやすい社会について考え、身近なもの・ことについて、使い方や特徴を説明したり、自分の考えを伝え合ったりすることができる。

終末の姿: ALTに日本で売っている便利なユニバーサル商品について実物を示しながらその特徴や使い方、その商品に対する自分の考えを発表する。

Look at this. I will tell you about this universal design product.

These are scissors. They have a special shape, so we don't need a lot of strength. Everyone can use them with a little strength, so we can cut paper easily. They are very helpful.

I want everyone to use these scissors. I think it's necessary to think about making happy society for everyone.

Unit4 Homestay in the United States「話すこと[やり取り]」イ

日米の生活習慣や文化の違いを知り、アメリカ人留学生と日本で暮らすヒントを考えるために、しなければならないことや決まりごとについて話される対話の概要を捉え、相手の立場に立ち、相手が納得できるアドバイスを伝え合うことができる。

終末の姿: 日本とアメリカの学校生活に関する手紙を読み取り、日本とアメリカの学校生活の違いや日本の学校生活でしなければならないことなどについて生徒同士でやり取りする。

A: I'm surprised that students bring their lunch. In Japan we don't have to bring lunch every day.

B: Yes, I think Japanese school lunch is delicious. It's good for our health. But we have to prepare our lunch to each other. Let's tell him about serving lunch.

A: Sounds nice. How about cleaning? It is important to clean our school.

B: I think so, too. Let's tell him how to clean, too.